全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま 基調講演

過疎地域の使命

－日本の価値を高めるために－

2023.10.26

早稲田大学名誉教授

宮口　侗廸

1．富山での過疎シンポジウム開催の意義

大都市圏を除けば最も過疎地域の少ない県
最初の過疎法成立時の過疎指定はわずか2村
現在は南砺市・氷見市・朝日町のみ
大河の下流平野中心のコンパクトな県
売薬資本の水力発電によって大正期から大企業の工場誘致
金属・紡績など駅前ごとに大工場ができた
その後工業団地方式でも先進県
第2次産業従事者比率は1位を堅持

経済県富山の人も過疎地域の素晴らしい取り組みを知り
日本全体に思いを馳せてほしい

2. 過疎法の歩み

最初の過疎地域対策緊急措置法は1970年

65年国調で急激な地方の人口減があらわに

団塊の世代の大都市への流入が顕著になる

存続が危ぶまれる地域が出現

都市に対する生活インフラの整備の遅れが目立つ

議員立法で10年の時限の過疎法が成立

償還の7割を地方交付税で補填する前例のない法律

かつ市町村の主体性が基本にある

その後10年ごとに振興特別措置法、活性化特別措置法と続く

道路・集会施設などハード整備だが対象は少しずつ拡充

2. 過疎法の歩み

第4次の自立促進特別措置法（2000）で過疎地域の役割を議論

「過疎地域は単に困っているだけの地域ではない。
美しい自然の中の人の営みは都市にない価値を持つ」と
宮口は主張。

次の点で過疎地域の役割として共通理解を得る

① 多様で美しく風格ある国づくりへの寄与
② 国民が新しい生活様式を実現できる場としての役割
③ 長寿高齢化社会のさきがけとしての役割

2010年には民主党政権下で自立促進法を6年拡充延長
このとき過疎債のソフト事業への充当の条文が生まれる
自民党政権に戻りさらに過疎法は5年延長、2021年までとなる

3. 半世紀前に過疎法が生まれたことの現代的意義

2015年に国連サミットがSDG’sという国際目標を採択

貧困・健康・地球環境等17の目標と169のターゲット

誰一人取り残さないという思想

日本の過疎法はこれに先立つこと45年

人口減少と財政力指数を基本的な指標とする

どの市町村も取り残さないという姿勢は世界でも極めて先駆的

半世紀以上継続していることにも大きな価値が

新過疎法のもとで誰一人取り残さない地域社会の構築を

4. 過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法成立の意義

名称に持続的発展が使われたのはSDG ‘sの時代の空気を反映か
格調高く過疎地域の価値に触れた前文あり、懇談会の提言をかなり反映
　「国民の生活に豊かさと潤いを与え、国土の多様性を支えている」
第１条の目的では「人材の確保及び育成」が最初に記述
　続いて雇用機会の拡充、住民福祉の向上、地域格差の是正、美しく風格ある国土の形成
第4条の対策の目標でも「多様な人材を確保し、育成すること」が最初にある
　生活インフラの格差がかなり改善されたことも背景に
地域の発展は人がつくるということが普遍化されたことの意義は大きい

5. 目標は豊かな少数社会

最近の過疎地域の総人口は9.3%、総面積は63.2%に達する
　かつては約45%の土地に約6%の人口、増加の主因は市町村合併の進行
「過疎地域は人口減少を嘆くのではなく、少数の人間が広大な空間と資源を活用する豊かな少数社会をめざすべき」
　→25年前の著書で主張、その思想は一貫して変わらず
都市経済の基盤は人の数と効率、自由競争で育ち淘汰も
　都市が成長を続けた時代は遠い昔、今や格差・貧困・孤独など不幸をも量産
少数社会では人と人が支え合っていい状況をつくることが可能
　パワーとスキルを持つ人の参入で新しいしくみの創出が可能
多くの指標で日本という国の地盤沈下が目立つ時代
過疎地域で幸福感のある地域生活をつくることがこの国の価値を高める

6. 大都市にも小さな社会に関心を持つ人が増える

かなり前から地方への移住に関心を持つ人が増加

地域おこし協力隊や地域おこし企業人などの制度は完全に定着

　起業や継業が多く生まれる

　田舎の濃い人間関係に感動する報告も

　都会にない田舎の良さを取り上げたTV番組も増える

情報のセンスも大都市と地方を上下の間隔で見た時代から大きく変化

7. 豊かな少数社会への道

（1）経済的活性化のための基本認識

少数社会では効率的分業システムは成り立たない

生産組織の複合化は基本、丸ごと地域を背負う企業もあっていい

季節の推移に合わせた生産体系を考える必要も

自然と地域資源の活用が人口減と高齢化で退化している現状

新たな人材とスキルで新しいチャレンジの必要が

移住者や地域おこし協力隊などの若者の新鮮な眼も力になる

地産地消を軸に豊かな経済循環をつくり出すことをめざそう

少数社会では人の力が見えやすく役割分担も生まれやすい

起業だけでなく継業にも価値が

人材が場を得れば蛮勇をふるって成功することも多い

7. 豊かな少数社会への道

（2）地域社会の社会的活力を高めること

幸福感には地域社会のあり方が大きく反映

　地域の居心地の良さをいかにつくるか

表彰地域にもいくつも例が

　和歌山県かつらぎ町天野の里の移住者と住民のいい関係

　長野県根羽村は移住コーディネーターが新しい社会関係を誘導

　岐阜県飛騨市のヒダスケは遠くの人のお手伝いで地元が盛り上がる

根羽村と飛騨市は行政が地域社会の活性化を誘導した好例

居心地の良さは安定のみでは不十分、交流による刺激で実感が

　高知県津野町の森の巣箱は山間集落で宿泊施設・コンビニを運営

人と人のいい関係がつくれればいろんな大きさの地域社会があり得る

行政は人の情報をキャッチして人材をつなぐ必要あり

会話が行きかい付き合いのパワーが大きい状況が「にぎやかな過疎」

森の巣箱

キクロン
High Quality
おすすめ品
さわやか背筋
819

四星球
春鶴

株式会社 大宮産業
警察官立寄所
暴力追放推進事業所

リポビタンD
30%増量!!
焼めし
糀
しょうゆ

7. 豊かな少数社会への道

（3）豊かな自然ももとより過疎地域の価値

わが国の緑あふれる自然がいかに豊かであるかを知ろう

基本は暖かい時期に雨が十分に降ること

低い山々も樹木でおおわれているのは低地の水田の生産力が極めて高かったから

山とその下の農家と低地の水田のつくる風景がいかに美しいか

過疎地域では自然をきめ細かに利用した暮らしが維持されてきた

美しい自然をツーリズムを含む経済活動に活用することは大きな課題

教育目標
めあて
まとめ
月の起源を探る
7月29日(水)

PLENTY
TOUGH

粟島浦小中学校養殖
学校わかめ
”学校わかめ”とは・・・
粟島浦村の小中学校が授業の一環としてわかめの種付けからパッケージまでを行った、想いがたっぷり詰まった商品です！
学校の情報や児童生徒の様子がHPに載っています！
粟島浦小中学校
https://www.awashimaura.ed.jp/
30g ¥700（税込）
ここ粟島の！
採れたて
自然わかめ
学校わかめ

8. 過疎地域の使命

過疎地域は経済成長・効率化の時代に条件不利地域として出現
国の支援もあり土地に密着した暮らしを何とか維持してきた
そこでは豊かな自然が保たれている
今や日本の多くの経済指標は相当下位に転落
過疎地域は少しの支援で生き抜いてきた地域
過疎地域が豊かな少数社会に置き換わることが国への最大の貢献

　日本を隅々までしっかりした暮らしがある国に
　これこそ過疎地域の使命

大きな物差しで日本が世界から敬意を払われるように